

のスラブの滝がある。

落口より懸垂で降りると例の岩磧状の滝の落口であった。そこより右岸の尾根に取付き鋭い岩峰に登ると展望台のようなテラスがあり、あたりの地形が手にとるようわかった。この尾根は、両側に深い谷を持ち、尾根自体も、出合に向って急激に落ち込んでいるので、高度感は満点である。出合に向ってブッシュをたよりに下ると、次の岩峰との間の誠に狭いコルに達した。第二の岩峰は、かぶりきみに、もろい岩を張り出している。このコルから左へ下れば、例の五段の滝下へ降りることになるが、垂直に近い草つきのルンゼである。ハーケンをスタンスにし、荷をつり上げて岩峰に立った。これより下は、スラブとブッシュの急斜面で、懸垂を交え、ブッシュにぶらさがりながら下る。一気に先日のビバークサイトまで降り、一息ついて無事 B C へ戻る。

出発(7:30) — 第一岩峰(10:20) — 第二岩峰(11:10) — (2:40) ビバークサイト(3:10) — (5:40) B C。

IV. 北の山・南の山

1 (1) 屋久島(1963年3月)

和田徳之

2月28日晴。 19:05発鹿児島行急行「霧島」にて5名大阪を出発。

O B、現役、山岳部の見送りをうけて屋久島へ。

2月29日晴。 鹿児島駅には小野氏、中野、永森が迎えに来ていた。今晩船は出航しないとのこと。それで旅館にいったん落着いてから鹿児島、九州、折田汽船へ出航日をたしかめに行く。その結果、第三日目とやらで三会社とも明日は休航日、また一日無駄にしなければならないはめとなった。

3月1日雨。 小雨降る鹿児島の町を散歩などして時間をつぶす。

3月2日晴のち小雨。8:00九州商船の屋久島丸にて一路屋久島へ。約5時間で全員元気に段ノ浦港に上陸、小雨がバラついている。屋久町役場に寄り計画を説明し、14:20バスで永田部落へ。中野、古谷の両名は一湊で下車し山本友行氏宅へ寄る。他4名は永田公民館にお世話になる。

3月3日雨。参加者が少ないとめ一度にサポートすることは無理と判断、2回に分けてサポートすることにする。南国の春山とはいえ雪はまったくなく大木が茂り、地図上に現在地を知ることもかなり困難である。

タイム 5:00 起床、7:30 永田出発、8:45 尾根取付き、9:30 見返り峠
11:10 第一回昼食、12:20 水取谷、15:00 テント設営

3月4日晴のち雨。1540mのピークを過ぎるあたりから残雪がみられるようになるが、冬山装備はまったく不用である。もっとも今年は雪が少ないようだが、昨日と同じく視界が悪く、国割稜線へいつでたのかもわからない始末である。鹿ノ沢小屋あたりからはヤクザサ地帯となり、木も少ない。ガスがひどくまったく視界は悪いが晴れていればきっと美しい所だろう。今日は少し強行軍ではあったが無事目的地の永田岳、宮ノ浦岳コルまで行けた。

タイム 7:15 出発、8:30 竹の辻、9:15 タナヨケ、9:30 七本杉、
11:00 第一回昼食、12:15 ケ岩屋、13:05 第二回昼食、13:15 桃平、
13:35 沢、14:25 セッ渡、14:25 鹿ノ沢小屋、15:15 第三回昼食、
16:35 永田岳、17:40 永田岳宮ノ浦岳コル

3月5日快晴。計画では今日から北壁試登が始まるのだが、北尾根縦走隊がまだ来ないので待つことにし、先着隊は岩場の偵察に出かける。永田岳に立って北尾根を眺める。すばらしい。ピカピカ光が反射していかにも硬そうにそそり立っている。高度もかなりありそうだ。目をそらせば大隅半島、薩摩半島、口之永良部島、種子島と一望のもと、実にすばらしいところだ。

3月6日曇。北尾根隊が到着しだい計画を進めることにして、永田部落に残した荷物を取りて雨が今にも降りそうな中を出発する。後に残った2名はこれから、この広いテントの中に2昼夜は過ごすのである。さびしいかぎりだ。

3月7日雨。何かの音に眼がさめる。大雨のテントをたたく音、さすがに屋久島だ。これもしかたあるまい。中野、古谷は今日もまた来ないであろう。外はガスの世界だ。視界ゼロ。大声でも出さないと心の中が落着かない。

3月8日ガス。今日はすごく冷え込む。軽い冬型の気圧配置になっている。テントもパリパリに凍りつき、結晶が光ってみえる。11:40 永田部落へ荷を取りに行った2名が無事帰ってきた。だが北尾根隊がまだこない。このガスでは視界がきかず停滞しているのであろう。その心配も吹つ飛ぶときがようやくやってきた。16:10 頃永田岳の方に声を聞く。外はガスがかかり姿は見えず、実に一週間ぶりだ。予備日も今日一日でおわりであった。ほんとうにごくろうさん。

3月9日快晴。きのうまでの天気がうそのように晴れわたり暖かい天気となった。午前中テント内の整理とぬれものの乾燥をする。一週間悪戦苦闘後の2名にはよい天気でなにより。午後北尾根へ偵察を出す。2峰側壁から5峰側壁をスケッチし、ルートの研究とともに4・5のコルを西面へ下って見たが正面壁はどれも、とても手が出ない。200mはあるだろうか。

3月10日快晴。昨日偵察した側壁に向う。二峰側壁をアタックすることにする。メンバー中野、増瀬。10:30 取付。見た目よりも実際取付いてみるとむつかしいところである。20mほど登り、あと1mでテラスというところで前に進まない。ハーケンを打っても岩がかさなりあってできているため、いっこうにききめがないようだ。それでもなんとかハーケンを3本打つ

たが、テラスに出ないとどうしようもない。テラスまであと1mというところで何分ぐらいいたであろうか。突然転落、ハーケンがぬけたのだ。幸にかかり傷程度ですんだが、状況、状態を見て無理することなく、岩登を中止する。

3月11日快晴。今日一日休養してあす縦走にうつることにする。

3月12日快晴。7:30 コルを発ち花江河にむかう途中、雪はほとんどないのだが、ヤクザサが背たけほどもあり、キスをかついではとても歩きづらい。花江河まで、そう時間はかかるないので、のんびりした歩調である。それほど起伏もなく、純日本式庭園なるものをながめながらも、俗化されていないこの山を歩くとき、きびしさというものは感じられない。

3月13日雨。湯泊への道はかなりひどいものである。大本が道をふさぎ、とても歩きにくいし、かなり危険なところも歩かねばならない。この雨だから、ほんとうに黙々と歩くのみである。湯泊へついたのは16:50である。長い道中であった。

(2) 永田岳北尾根

古谷 精宏

3月2日雨。小雨降る宮の浦の小石の多い浜へハシケでおりたった。すぐバスで中野さんと私は吉田へ、他のメンバーは永田へと向った。まず一湊で現地連絡本部をしていただいている山本さんに屋久島の様子をきき、吉田では青年団長ともあって公民館をお世話していただいた。青年団長に吉田岳への取付を教わった。吉田岳まではルートが有るとの事であったが、それ以後の永田岳までのルートは、全く知識は得られなかった。

3月3日雨。屋久島特有の雨が今日も屋久島のジャングルの木の葉を濡